

区民意見に対する区の考え方

- 1 提出人数 9名(郵送2名、電子申請7名)
 2 意見数 14件(うち、類似意見4件)

No.	分類	意見要旨 ※【】内は意見数	区の考え方
1	全体	<p>大田区としてすでに取り組んでいることと新規に予算をつけて具体的に取り組むことが何か分かりにくい。</p> <p>今はその前段階であり、区民へ情報提供をすることが主なかもしれないが、促進します、普及拡大目指します、の具体的な中身が気になった。</p>	<p>本戦略では、現状の課題や目標達成に向けた取組の方向性を取りまとめています。</p> <p>また、本戦略で定めた取組の方向性に基づき、いただいたご意見も踏まえながら、今後の各施策・事業を具体化していきます。</p> <p>なお、令和5年度新規に予算をつけて具体的に取り組むことについては、大田区ホームページにおいて、「環境」施策の概要をまとめて掲載しております。</p>
2	全体	<p>地球温暖化は、全ての人に関わるべき問題であり、自分が何をすれば良いか分かれば、協力する区民は多くいると思うため、多くの区民に知ってもらうことが大事だと思う。</p>	<p>本戦略を策定して終わるのではなく、ご指摘のとおり、区民の皆さまへの周知啓発に努めてまいります。</p>
3	全体	<p>全体的に、絵が多く、今からすぐに実施できるコラムが載っていて、参考になった。</p> <p>一方で、脱炭素戦略をなんのために実施しているのか資料を見ただけでは少しわかりにくかった。</p> <p>アンケートについても、災害時に使えるエネルギーの確保の記載がなぜ必要なのかなど、質問の目的がわからなかったのも、もう少し記載があればわかりやすかったと感じた。</p>	<p>ご指摘の内容を踏まえて、1ページの「はじめに」の内容を更新し、脱炭素社会とは何か、地球温暖化が進むとどうなるのか、大田区にも影響があるのかの3つを示すことで脱炭素社会を目指すために本戦略を策定することを示す内容とします。</p> <p>また、アンケートの目的や項目設定の理由についても5ページに説明を追加します。</p>
4	第1章 基本的事項	<p>SDGsについて、ゴール13と7, 11, 12が関連しているが、15の生物多様性や気候変動教育の視点から4も加えても良いのではないかと。</p>	<p>ご指摘のとおりゴール15の「陸の豊かさを守ろう」なども関連してきますが、今回は令和3年度に策定した「大田区環境アクションプラン」の「基本目標B 気候変動緩和策の推進」の取組強化を図るため、SDGsも基本目標Bに合わせています。</p>
5 ～ 8	第3章 温室効果ガス排出量の削減目標	<p>大田区環境アクションプランで、基準(2013)年度比46%していた温室効果ガス排出量の削減目標を今回の大田区脱炭素戦略で50%に引き上げるとのことだが、気候危機により、生活に様々な影響を与えていて、待ったなしの状況であることや、エネルギー高騰もあり、更なる省エネが急速に進行していく状況も踏まえると、削減目標は60%の高みを目指すべきではないか。【4件】</p>	<p>本戦略に掲げる50%削減は、区の地域特性と、現状の活動量に基づいて積算しており、区民・事業者などあらゆる主体が再生可能エネルギーの導入拡大、省エネ設備の導入・省エネ行動による削減を「自分ごと」として受け止め、共に行動し、達成すべき目標です。</p> <p>現在、世界的なエネルギー逼迫により、脱炭素化の取組がより困難になりつつあります。まずは中期目標として、2030年度に向かってカーボンハーフの達成を目指します。</p> <p>そのうえで、早期に中間目標を達成した場合は、留まることなく、さらなる高みであるカーボンゼロを目指していきます。</p>

No.	分類	意見要旨 ※【】内は意見数	区のお考え方
9	第4章 脱炭素戦略の取組とロードマップ	「3. 持続可能な環境先進都市実現に向けた課題」(P.9)における、持続可能な環境基盤を築くという方針に賛同するとともに、太陽光発電の導入拡大を進めながら地域のレジリエンスを一層強化するためには、天候等による発電電力量の変動に対する調整機能を持つコージェネレーションシステム等の導入により電源を多重化し、災害時のエネルギーを確保する必要があるのではないか。また平時には、コージェネレーションシステムによるエネルギーの効率的な利用により省エネにも寄与することから、各部門の取組の方向性等に「コージェネレーションシステム等」の表現を追加した方がよいのではないか。	ご指摘のとおり、太陽光発電の導入拡大を進めながら地域のレジリエンスを一層強化するためには、天候等による発電電力量の変動に対する調整機能を持つコージェネレーションシステム等の導入により電源を多重化し、災害時のエネルギーを確保するため、各部門の取組の方向性等に「コージェネレーションシステム等」の記載を追加します。
10	第4章 脱炭素戦略の取組とロードマップ	第6次エネルギー基本計画において、天然ガスは、「将来的には、合成メタンを製造するメタネーション等の技術の確立によりガス自体の脱炭素化の実現が見込まれる」とされている。合成したメタンは、都市ガス導管等の既存インフラ・既存設備を有効活用でき、社会コストの抑制が可能であり、2050年カーボンニュートラルに向けて、効率的な脱炭素化手段として大きなポテンシャルがあることから、業務・産業部門の2050年度の目指すべき姿にメタネーションに関する記載を追加した方がよいのではないか。	ご指摘のとおり、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた手段として水素だけでなくメタンにも可能性があるため、24ページの業務・産業部門の「2050(令和32)年度の目指すべき姿」にメタネーションに関する記載を追加します。
11	第4章 脱炭素戦略の取組とロードマップ	燃料電池車(FCV)もV2Hの形で建物への給電が可能であり、停電時のレジリエンス強化に貢献できることから、運輸部門の背景と課題に電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHEV)だけでなく、燃料電池車(FCV)に関する記載も追加した方がよいのではないか。	ご指摘のとおり、燃料電池車(FCV)もV2Hの形で建物への給電が可能であり、停電時のレジリエンス強化に貢献できることから、26ページの「背景と課題」に燃料電池車(FCV)に関する記載を追加します。
12	第4章 脱炭素戦略の取組とロードマップ	自分が生活をするだけでどれだけ排出量を出しているのかも少しわかるようにしていただけるとありがたい。 例えば、何年式の給湯器や設備を利用して、どこの電気会社、ガス会社だと、この量を使用したらそれだけの排出量になるのか、切り替えたらどれだけ減るのかというようなシミュレーションができるような仕組みや表彰の制度に関するアプリを開発し、町ごとやマンションの年代別など、自分事にできる仕組みを考えて展開していただきたい。	本戦略では、現状の課題や目標達成に向けた取組の方向性を取りまとめています。本戦略で定めた取組の方向性に基づき、いただいたご意見も踏まえながら、今後の各施策・事業を具体化していきます。
13	第4章 脱炭素戦略の取組とロードマップ	「廃棄物部門」でプラスチックの排出を抑制するための施策についての具体的な内容も明記いただきたい。他の自治体だと、区有施設での自動販売機ペットボトル廃止や、使い捨てプラスチックの規制等で取り組んでいるところがあるので、そういった他自治体の取り組みも参考に、大田区でもより具体的な取り組みを検討いただきたい。	本戦略では、現状の課題や目標達成に向けた取組の方向性を取りまとめています。本戦略で定めた取組の方向性に基づき、いただいたご意見も踏まえながら、今後の各施策・事業を具体化していきます。

No.	分類	意見要旨 ※【】内は意見数	区の方え方
14	第4章 脱炭素戦略の 取組とロード マップ	資源プラスチック回収事業を実施することで、ゴミ袋消費量の増加、運搬や焼却に伴うエネルギー使用の増加、CO2排出につながると懸念しているが、この回収事業が本当にエコにつながるのか。	資源プラスチック回収事業は、CO2及びごみの削減、最終処分場の延命化等を目的としております。可燃ごみのおよそ2割を占めるプラスチックを再資源化することで、プラスチックをごみとして焼却する場合と比較して総合的なCO2排出量は大きく減少します。また、プラスチックをできるだけ使わない新しいライフスタイルへの転換やプラスチックごみ削減に向けての普及啓発を推進するとともに、収集運搬ルートの最適化やCO2の排出量が少ない車両の導入について引き続き検討してまいります。